日刊 動労千葉

79 10.13

No. 247

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二-一八（動力車会館）

（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

動労千葉第1回臨時委員会

10・21国際反戦闘争と結合した 10・22スト戦術決定！

二期工事阻止！ジェット増送阻止！国鉄三五万人体制粉砕！

一〇月一二日、動労千葉第一回臨時委員会が開催され、結成以来今日までの動労「本部」反動集団との対決と勝利の上に築かれた組織的前進を確認するとともに、当面する二期工事粉砕・ジェット増送阻止・国鉄三五万人体制攻撃粉砕・10・21国際反戦闘争勝利に向けた闘争体制を確立した。　一〇月一二日一三時、動力車会館会議室に各支部からの委員、傍聴者約五〇名が結集し、西森副委員長の開会のあいさつの後、議長に館山支部の渡辺委員を選出、議事に入っていった。　動労千葉関川委員長の挨拶の後、中野書記長より当面する取り組みの大綱、水野組織部長より協約・協定締結について提案が行われ、質疑討論に入った。　各委員からの活発な発言の中で討論が深められ、「10・21」を起点とする闘いの具体的戦術を決定した。

活発な討論を展開

各委員から出された主な質問・意見は次のようなものである。

(1)「10・21」を中心とする具体的戦術について。

(2)「10・10ジェット燃料列車襲撃」に対して動労千葉としてどのように対応するか。事実経過だけではなく「本部」反動暴力分子との対決の側面、運転保安上の側面も含めて意志統一をかちとるべきである。

(3)三五万人体制攻撃に対する具体的闘いの展望と戦略・戦術について。

(4)54・10ダイ改交渉をはじめとする交渉経過について。

(5)サークル関係。

これらの質問に対して執行部からは「10・10」列車襲撃に対しては「『10・10』事件は、鉄路のたたかいとかたく結合して、ジェット燃料輸送阻止闘争を真に導くという点から、明々白々の誤りであることをきびしく指摘しなければならない」という見解が述べられ、動労千葉として「『10・10』事件に対するわれわれの態度」として声明を出し、本委員会後、記者発表を行い社会的にも見解を明らかにするという考え方が述べられたのをはじめ、それぞれの質問・意見に対する答弁が行われ意志統一がかちとられていった。

委員会は最後に吉野青年部長の音頭による組合歌合唱、関川委員長の団結ガンバローをもって一六時三〇分終了した。

鮮明となった闘いの意義

この動労千葉の10・22ストは、

第一に、動労千葉の正義性と真価を問う闘いであり、

第二に、二期工事阻止をめざす三里塚・芝山農民との労農連帯を一歩前進させ、右翼化する日本労働運動の戦闘的再生の突破口をきり拓く闘いであり、

第三に、国鉄「再建論議」に埋没している国労・動労中央指導部の反合闘争放棄という現実の逆流に抗する国鉄反合実力闘争の第一波の闘いであり、何よりも、革マル反動集団に私物化され、労働組合らしい運動を全く放棄し、国鉄当局の尖兵を積極的に果している動労「本部」と路線的・運動的決着をつける第一波の闘いである。

いかなる敵対、いかなる妨害・弾圧があろうとも、労農連帯の大義を守り、二期工事粉砕、ジェット増送阻止の闘いを貫徹し、国鉄三五万人体制攻撃を粉砕し、動労大改革、労働運動の戦闘的再生のために断固闘い抜いてゆこう。

二期工事阻止・ジェット増送阻止・国鉄三五万人体制攻撃粉砕の闘いの具体的展開

〈第一波闘争〉

一〇月一二日成田地区の貨物列車対象の一二時間ストを中心とした闘い。

〈第二波闘争〉

ジェット燃料増送強行開始日を中心に設定。

〈第三波闘争〉

一二月段階に反合・新採獲得闘争として設定し、来春三月闘争を展望する。

（第二、第三波の戦術については、10・21スト後に機関決定）

第一波闘争の戦術

10／20　一四時千葉市本町公園「10・21国際反戦デー千葉県集会」

10／21　一〇時成田運転区集合、最大限動員で「二期工事粉砕・国際反戦勝利三里塚現地集会」へ結集

10／21　一八時成田運転区構内で「10・22スト貫徹成田拠点集会」を開催、最大限動員で結集

10／22　(1)〇時より貨物列車を対象とした成田地区一二時間スト

(2)全組合員を対象とした始発時又は始業時から一二時までの減産A行動

※　権力の介入等があった場合は全支部へ拠点拡大する（全支部へ準拠点準備指令を発出）

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！